

## 地球温暖化と宗教が肉食を忌避する訳

### 生長の家の環境問題の基本認識

地球環境問題は今やその影響が地球規模の広がりを持つとともに、次世代以後にも及び深刻な問題である。この環境問題の解決には技術的側面から、文化的側面から政治的側面からも種々の取り組みが行われていますが、小手先のことで解決しない。一言で言えば宗教心がなければ解決しないという認識です。それは環境問題の根本原因は「欲望を満足させるためには鉱物資源・動物資源・植物資源などの地球上のあらゆるものを利用していい」という人類の利己的な考え方（肉体人間至上主義）にあり、これを改め「この宇宙はすべて一つである」即ち「すべては一体」の世界観に立ち、多くの人々が速やかに“環境に配慮した生き方”をするようにならないと考えるからです。環境問題を本当の意味で解決するためには人類のものの見方が変わらなければならない。

今後ますます私達一人一人は「人間 神の子。天地万物に感謝せよ。すべては神において一体」という宗教的信念にもとづき、日本だけでなく世界に目を向けながら自分の生活を律し、見直すとともに環境保全活動に貢献することが現代的な意味での宗教生活の実践であることを深く心に銘記して、このような「考え方」「生き方」を広めることによって環境問題を解決していこうとしているからです。

『今こそ自然から学ぼう』 P328

### 地球環境問題について—環境方針—

環境問題は、ここ産業革命以来2世紀位の間起こった問題で、21世紀の人類にとって大きな奥の深い問題である。この問題は宗教心がなければ解決しないと考える。

地球環境は、その影響が地球規模の広がりを持つとともに、次世代以降にも及び深刻な問題である。今日、吾々人類に必要とされるものは、大自然の恩恵に感謝し、山も川も草も木も鉱物もエネルギーもすべて神の生命、仏の生命の現れであると拝み、それらと共に生かさせて頂くという宗教心である。この宗教心にもとづく生活の実践こそ地球環境問題を解決する鍵であると考えます。

生長の家は、昭和5年の立教以来、“天地の万物に感謝せよ”との教えにもとづき、全人類に万物を神の生命、仏の生命と拝む生き方をひろめてきた。

生長の家は、この宗教心を広く伝えると共に、現代的な意味での宗教生活の実践として環境問題に取り組み、あらゆるメディアと活動を通して地球環境保全に貢献し、未来に“美しい地球”を残さんとするものである。

『今こそ自然から学ぼう』 P58～59

## 1. どのような環境問題がおこっているか

- ① 地球温暖化                      ② 酸性雨                      ③ 砂漠化                      ④ オゾン層の破壊  
⑤ 森林（熱帯林）破壊              ⑥ 野生動物の絶滅

## 2. 環境問題の原因は

根本的な原因は人間の心にある。肉体人間至上主義、経済至上主義、人間の利己的欲望を満足させようとして生きてきた産物である。

宇宙にある一切の存在はすべて神の生命と愛と智慧とが宿っているという事を忘れ唯物的人間観に立ち、物質的な繁栄を追い、人間だけの欲望や快樂という天国を作る事を優先してきた結果である。

## 3. 今日の大きな問題である「環境」と「資源」と「平和」は密接に関連しているという事とはどういうことか

○生長の家が「世界の平和を目指す」と言ったら「平和に関することだけをしていればいい」というわけにはいかない。皆つながっている。

平和を実現しようとしたら **環境**の問題も考えないといけないし人類は現象的に生きていくためには **資源**も使う（食事として、エネルギーとして）。

だから私達人間が日常生活をどう送るかという事が、**平和**の問題でもある現在のような大量消費、大量廃棄の生活スタイルから地球環境に害を与えない生活法を開発し実行していかなければならない。

○大切なのは「減っていく資源をいかに多く確保するか」ではなく、ものの考え方を転換して「減らない資源をいかに利用するか」という事。つまり、化石燃料に頼らない経済へと早く移行する事である。

- ・太陽光発電、風力発電等再生可能な自然エネルギーの活用——我々は心の分野では善一元の神への信仰を一層深めていくと同時に、「**実際生活**」の分野でも神の御心が反映される生き方をしなければならない。

## 4. 環境問題の解決は**法施**と**物施**によって

神や仏と環境問題は関係しているというのが生長の家で“天地の万物に感謝せよ”“人間だけでなくすべての動物植物は神のもとにおいて一体であるという自他一体、万物一体”との教えに基づき万物を神の生命、仏の生命と拝むという宗教心を広く伝える＝**法施**と日常生活の中で教えを実践していく—万物に感謝し礼拝しつつ資源を使わさせて頂くという他から奪わず、環境を破壊せず他に与える、地球にやさしい生活の**実践**＝**物施**によって生活スタイルを変えて行くこと。

我々は「心」の分野では、善一元の神への信仰を一層深めていくと同時に、「**実際生活**」の分野でも、神の御心ができるだけ反映されるような生き方をしなければいけない。「人から奪わない、環境を破壊しない、生物を絶滅させない生き方」を、我々一人ひとりが自ら始め、始めている人はさらに推進し、他の多くの人々にも及ぼしていくことが重要です。そうすることで、二十年後に来

るかもしれない。“危機”を危機でなくするのです。また、それがテロなどの現在の問題への解決の鍵を握っている。生長の家の信仰者の皆さんが、神想観によって神の御心を知り、それを生かす生活を率先して行っていけば、本当の意味での「幸福」がやがて世界に実現していきます。

ぜひ多くの方々に御教えと、信仰にもとづく我々の生き方を伝えていただいて、人類光明化運動・国際平和信仰運動をさらに大きく発展させていくことが大切。」

『森の中に行く』 P100

## 5. その具体策は

「減っていく資源をいかに多く確保すること」ではなく「減らない資源をいかに利用するか」ということ→化石燃料に頼らない経済へ早く移行する

- ◎自然エネルギーの導入（太陽光発電・風力発電—装置についての助成）
- ◎国際規格であるISO14001の認定取得
- ◎グリーン募金活動の実施
- ◎CO<sub>2</sub>排出量削減
- ◎ハイブリット車

## 6. 家庭で出来る事は

- ①冷暖房の温度調節
- ②マイバッグ携帯(レジ袋はもらわない)
- ③電気水道使用量削減
- ④マイカー使用減らし電車で
- ⑤肉食から菜食へ
- ⑥商品の選び方(エコ製品を)
- ⑦マイ箸携帯(割り箸は頂かない)
- ⑧植樹、花作り
- ⑨再生紙使用

## 7. 平和のライフスタイル・PBS 活動

### ・平和のライフスタイル

- ◎ 白鳩会総裁・谷口純子先生のご指導のライフスタイルを変えるための5つの提案  
大自然讃歌を讀誦

①「すべては神おいて一体である」という世界観をもち、他から奪わない、与える生活へ

②買い過ぎない、もち過ぎない—買う時本当に必要であるかを考える

地球上の人口75億人の内飢餓人口9億人以上、食糧不足8割、飽食2割。

③安さの裏側を考える—安いという事は環境負荷が多い。高いものを無駄なく使う生活  
マイバック、マイ箸、自宅での料理作物を作って下さった方々への感謝の気持  
「ものの背後に神の生仏の生命がある」と拝んで使う

④地産地消をする。——日本の農業を支える。未来の世代へ豊かな社会を残す

⑤家庭菜園を作ろう——ベランダでもよい太陽の恵みで育つものを作る。

収穫の喜び、実る事によって与えあいの世界を感じる事が出来る。

⑥倫理的な生活の実践

ノーミート低炭素の食生活、省資源低炭素の生活法、自然重視低炭素の表現活動

## 8.環境問題—世代間倫理

今日、現在の生活水準で満足している日本人が多いが、今の生き方を続けていればこの水準を保つ事はできない。化石エネルギーもあと数十年でなくなる。資源も人間の欲望のまま使っていると環境問題（地球温暖化、森林（亜熱帯林）破壊、オゾン層の破壊、野生動物の絶滅）は解決できない。今の自分たちの時代はいけても、子や孫の時代には到底地球は美しさを保てないし、エネルギー資源も次世代や次の次の世代の人々に保証するものではない。エネルギーも自然と共に伸びる生活にかえ太陽光発電、風力発電に切り替えるなりCO<sub>2</sub>削減したりして環境の悪化をくい止めなければなりません。人類は欲望優先の生き方からもっと倫理的な生き方に切り替えるべき時期に来ている。

『今こそ自然から学ぼう』 P98

### 生長の家が肉食を忌避するわけ

- ◎食生活は人間にとって欠かすことのできない問題であります。何を食べるか、どのように栽培されたものを食べるか。毎日の食事のとり方が世界平和に大いに貢献することが出来る。
- ・台所は環境、資源、平和の問題と直接結びついていることがわかる。
  - ・家で料理をしなくても外でなんでも手に入り、口にすることが出来る、豊食時代、しかし手料理は手の込んだものでなく、心を込めて作った料理で家族は健康で幸せな毎日を送ることはできる。
  - ・猛暑、豪雨、竜巻、等地球規模の異常気象、地球温暖化現象、狂牛病、口蹄疫、鳥インフルエンザによる動物の殺生、森林伐採、世界中で9億以上の人々が飢餓で苦しんでいる現状を先進国の人々は真剣に考えないといけない。
  - ・地球温暖化が進み戦争が起こっている。化学燃料を大量に消費する現在の文明を支えているのは我々肉体人間至上主義、経済至上主義である。家畜が食べる穀物を育てるために石油を原料とする化学肥料が大量に使われている。
- 他人や他の生物を犠牲にして栄えようという我々の心が巡り巡ってこのような問題に結びついている。
- これ以上悪業を積まず積極的に善業を積んでゆく生活の実践として食生活の変化を考える。

### ◎ノーマートライフの理由

#### ① 宗教上の理由

- ・哺乳類のような高等動物になると脳が発達し「心」というものがある。死を直面するときは恐怖し苦しみます。
- ・狂牛病、口蹄疫、鳥インフルエンザ等が発生すると多くのまだ命ある家畜が殺処分され、その時の家畜などは前に進まず、涙を流し、声をうならせて抵抗する。神の生命の兄弟として倫理的にも宗教的にも他から奪わない生活をするのが大切です。

#### ② 環境保全として

家畜の餌は本来、草食動物である牛、豚、鶏、養殖魚などに早く成長させて売るといふ経済至上主義が横行し人間と同じ穀物、魚粉等 高たんぱく飼料を与えている。世界の穀物の35.5%が家畜のえさとなっている。この様な穀物生産のために畑が少なくなり、耕地面積

を増やすために森林伐採が行われている。

- 家畜の腹から出るメタンガスの温室効果は二酸化炭素の 21 倍
- 大量の家畜の肥料は大量の糞尿が生じ、廃棄処理ができず、水質汚染、大気汚染の原因となる。

### ③ 食糧問題（飢餓問題）

世界の飢餓人口は約 9 億人を超えた。人間の口に入らず家畜のえさになっている。アメリカ人の肉の消費量をわずか 10%減らすだけで地球上で餓死する人々を救うことができる。

現在、生長の家では毎月 11 日を「一汁一飯の日」を設け、世界で飢餓で苦しむ人々への思いを深め食事を通して四無量心を実践しております。

### ④ 健康上の問題

- 大量の抗生物質が家畜の飼料に使用されておりそれを食する人間の健康上よくない。  
「生長の家の食事」の祈りの中に「食事は自己に宿る神に献ずる最も厳粛な儀式である」と書かれています。私達の「内在する神様が満足できるような食事をいただきましょう」「肉食を避けましょう」という運動を展開していく。
- 家畜を食することは地球資源の浪費を促進することであり、飢餓拡大や予測できない自然改変につながることになる。多くの家畜の命を感染症によって殺処分した。この間違いから人間は欲望に振り廻されなくて、理性や、宗教的良心の判断で動植物も神の命の兄弟として生かし合いの生活をする。

◎肉食を続けることは動物や環境に害を与え、また、間接的に貧しい人々から食糧を奪うことになる。この世界は「因果の法則」「動反動の法則」が働いているので奪うものは奪われ、与えるものは与えられるという法則が厳然として働くのだから自分の行いの結果は自分で刈り取らなければならない。今私たちの生活が人や動物の犠牲のもとに成り立っていないかを反省し美しい地球を残せるよう一人ひとりができることからライフスタイルを変えて行く運動を展開する。

◎ 足元から日常生活を見直し、実践し生長の家の自然と共に伸びる運動の大切さを伝えていきましょう。

### ※ ○ 世界の穀物消費の内訳

○ 食用：46%    飼料：34%    その他：20%

○ 食用として、体重を 1kg 増やすために必要とする穀物量

牛：7kg    豚：4kg    鶏：2kg    大型魚：1.8kg